

令和7年度教育課程研究集会

中学校 社会科

徳島県教育委員会

現状の課題を踏まえた授業改善の方向性について

9:30～10:30 協議①

- ・現状の課題の把握について
- ・生徒が課題解決の見通しをもとうとする授業とは
(説明・グループ協議)

10:40～11:40 協議②

- ・社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする授業とは(提出課題を活用して)
(説明・グループ協議)

中学校社会部会 協議事項の推移（令和3年度～）

年 月	各会の研究協議題
令和3年度	6月 中学校社会科における「指導と評価の一体化」を踏まえた学習評価の改善に向けた取組
	11月 中学校社会科における「指導と評価の計画」作成上の課題と対応
令和4年度	6月 ①中学校社会科における単元を通して社会的な見方・考え方を働かせ課題を追究したり解決したりする活動の充実について ②中学校社会科の学習において目標とする資質・能力の育成に向けたICTの効果的な活用について
	11月 ①「課題を追究したり解決したりする活動」の充実に向けた問い合わせの構造化や学習評価の工夫の具体的周知と、周知上の課題と対応等について ②主権者として求められる資質・能力を育む教育の推進の取組の状況の情報交換について
令和5年度	6月 ①社会科における主権者として求められる資質・能力を育む教育の推進について ②中学校社会科の学習において目標とする資質・能力の育成に向けたICTの効果的な活用の推進について
	11月 中学校社会科における各分野の役割やつながりを意識した、社会科の教科や分野の特質を生かした課題を追究したり解決したりする活動の充実について
令和6年度	6月 ①課題を追究、解決する過程におけるICTの効果的な活用について ②各分野の資質・能力の育成を図る課題を追究したり解決したりする学習過程の充実について ③中学校社会科における小学校社会科の内容との関連、分野間の有機的な関連について
	11月 ①中学校社会科における高等学校地理歴史科、公民科の内容との関連を図った学習指導の現状と課題について ②社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする学習の充実について

令和3年度	6月	中項目における指導と評価の計画 学習過程を踏まえた「思考・判断・表現」の評価)
	11月	
令和4年度	6月	単元構造を踏まえた指導と評価
	11月	単元構造を踏まえた「見方・考え方」を働かせる問い合わせの構造化
令和5年度	6月	「主体的に学習に取り組む態度」などの評価の工夫
	11月	
令和6年度	6月	主権者として求められる資質・能力の育成
	11月	各分野の役割とつながり
令和7年度	6月	小学校との関連
	11月	各分野の資質・能力の育成を図る学習過程
		高等学校地理歴史科、公民科との内容の関連
		意味や意義、特色や相互の関連等の考察 課題を把握してその解決に向けた構想

課題を追究したり、解決したりする活動を通して



令和7年度 (今回)

- (1)① 単元など内容や時間のまとめを見通して、
② その中で育む資質・能力の育成に向けて、
③ 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。

その際、

- ④ 分野の特質に応じた見方・考え方を働きかせ、
⑤ 社会的事象の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、
⑥ 社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ること。

また、知識に偏り過ぎた指導にならないようにするために、基本的な事柄を厳選して指導内容を構成するとともに、各分野において、第2の内容の範囲や程度に十分配慮しつつ事柄を再構成するなどの工夫をして、基本的な内容が確実に身に付くよう指導すること。

- (2)① 小学校社会科の内容との関連及び各分野相互の有機的な関連を図るとともに、
② 地理的分野及び歴史的分野の基礎の上に公民的分野の学習を展開するこの教科の基本的な構造に留意して、

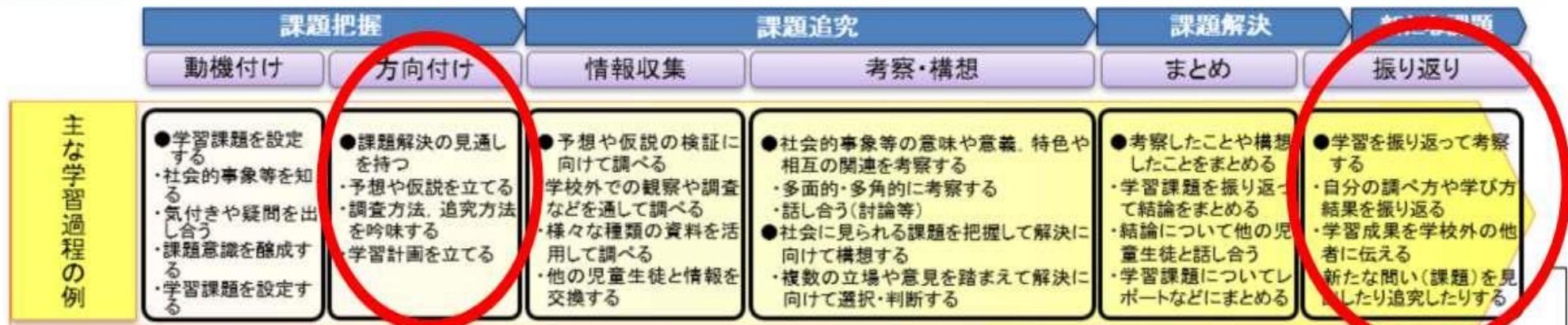
全体として教科の目標が達成できるようにする必要があること。

- ・小学校総則「解説」p.77 中学校総則「解説」p.78 高等学校総則「解説」p.122

…また、主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとめを見通して、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった観点で授業改善を進めることが重要なとなる。すなわち、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは単元や題材など内容や時間のまとめをどのように構成するかというデザインを考えることに他ならない。…

グループ協議①

社会科、地理歴史科、公民科における学習過程のイメージ



課題を追究したり解決したりする活動については、単元など内容や時間のまとめを見通して学習課題を設定し、諸資料や調査活動などを通して調べたり、思考・判断・表現したりしながら、社会的事象の特色や意味などを理解したり社会への関心を高めたりする学習などを指している。こうした学習は、従前から「適切な課題を設けて行う学習」として、その充実が求められており、「課題を追究したり解決したりする活動」はそれと趣旨を同じくするものである。そこでは、主体的・対話的で深い学びが実現されるよう、生徒が社会的事象等から学習課題を見いだし、課題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果をまとめ、自分の学びを振り返ったり新たな問い合わせを見いだしたりする方向で充実を図っていくことが大切である。三つの柱に沿った資質・能力を育成するためには、生徒が課題を追究したり解決したりする活動の一層の充実が求められる。それらはいずれも「知識及び技能」を習得・活用して思考・判断・表現しながら課題を解決する一連の学習過程において効果的に育成されると考えられるからである。そのため「課題を追究したり解決したりする活動を通して」という文言が目標に位置付けられている。（中学校社会「解説」p.24 2-1 教科の目標）



単元を通して、どのような活動を組むか



〈学習問題をつかむ場面〉

学習問題をつかみ、学習計画を立てるまでを丁寧に行う

※どう出合うか

※どう問い合わせをもつか

★一人一人が、問題解決の見通しをもつ

〈学習問題を追究する場面〉

どの時間にどのような活動を組むか、

単元をイメージして考える

※学習問題の解決に向けて、

見通し（学習計画）を基に、追究する

★社会的事象の見方・考え方を働かせ、

主体的に問題解決する

〈まとめる場面〉

学習したことを基に、まとめたり、

決めたりするように組む

※自分の考えをまとめる、自分の言葉でまとめる

※社会への関わり方を選択・判断する

柱書き(総括的な目標) 教科・分野・科目

※ 小学校社会科の各学年の目標においては
「学習の問題を追究・解決する活動」と表記

小学校 社会科

社会的な見方・考え方を働きかせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

中学校 社会科

社会的な見方・考え方を働きかせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。



<歴史的分野 目標>

社会的事象の歴史的見方・考え方を働きかせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、……次のとおり育成することを目指す。



<各内容の項目>

(2) 中世の日本

課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。
.....

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
…に着目して、……事象を相互に関連付けるなどして…考察し、表現すること

高等学校 地理歴史科

社会的な見方・考え方を働きかせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

高等学校 公民科

社会的な見方・考え方を働きかせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

「**主体的に**学習に取り組む**態度**」の理解

- ・積極性の度合いを測るものではない。
(「主体的」という言葉のイメージだけで捉えないこと)
 - ・性格を評価するものではない(真面目である...、静かに聞いている...)
(「態度」という言葉のイメージだけで捉えないこと)
 - ・評価する以前に、それらが表出される学習場面を設定する必要がある。
どうやって評価するの？ (何を「評価材」とするか)
→ その問い合わせの前に、教師自身が
「どのように学習を進めているか」「どのように授業を変えるのか」を確認。

※ 学習の自己調整を図ること → 例)生徒に自己評価をさせて.....

→（当然ですが...生徒がAを付けたらA、というものではない）

生徒が行った自己評価が、適切、妥当に自分の状況を評価することができているか、次の学習に生かそうとしているか、
を教師が評価する。

こうした情意や態度等を育んでいくためには、前述のような我が国の学校教育の豊かな実践を活かし、体験活動を含めて、社会や世界との関わりの中で、学んだことの意義を実感できるような学習活動を充実させていくことが重要となる。教育課程の編成及び実施に当たっては、第1章総則第4に示す生徒の発達の支援に関する事項も踏まえながら、学習の場でもあり生活の場でもある学校において、生徒一人一人がその可能性を發揮することができるよう、教育活動の充実を図っていくことが必要である。

なお、学校教育法第30条第2項に規定される「主体的に学習に取り組む態度」や、第1章総則第1の2(1)が示す「多様な人々と協働」することなどは、「学びに向かう力、人間性等」に含まれる。資質・能力の三つの柱は、確かな学力のみならず、知・徳・体にわたる生きる力全体を捉えて整理していることから、より幅広い内容を示すものとなっているところである。

学び続ける
生徒の育成



生徒が学び続ける意味・
意義を理解しつつ進むこ
とができる学習の工夫



それを目指した
指導と評価の改善

（「主体的に学習に取り組む態度」の観点の評価について）

地理的分野・歴史的分野

「内容のまとめごとの評価規準(例)」

「(OO)について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究(、解決)しようとしている。」

・「**見通し**」「**振り返り**」が大切。

・教師は、学習後の感想や記述のみで評価するのではなく、生徒自身が継続的に記述した記録を活用(例:ワークシート、ポートフォリオなど)するなど、**生徒が自身の学習を振り返ることができる材料(資料)を工夫**することが大切。

・**生徒が学習を振り返る学習場面を設定し、「知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面」「粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面**を統合的に評価する。そのためには、**単元計画など、学習計画上の工夫**が重要。

・**分野のまとめ「構想」**…地理的分野「C(4)地域の在り方」、歴史的分野「C(2)現代の日本と世界」では、分野の目標の到達点として、「構想」する学習が示されており、現代の社会の諸課題を踏まえて「よりよい社会の実現を視野に…追究、**解決しようとしている**ことや「**公民的分野の学習につなげる**」ことが示されている。

公民的分野は、分野の目標(3)が地理的分野、歴史的分野と異なるため、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準も異なる。

地・歴…「…課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う」

公民…「現代社会に見られる課題の解決を視野に**主体的に社会に関わろうとする態度を養う**」

「主体的に学習に取り組む態度」のうち、

・「**自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況**」については、単元末で、単元の始めに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすこととして見いだした内容により評価する。

・「**主体的に社会に関わろうとする態度**」については、単元の学習後も関心をもって自ら追究し続けたい、解決、改善を図っていきたいこととして見いだした、問い合わせの内容とその社会的意義の記述によって評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」の観点の評価について（3）

社会(公民的分野)

参考資料1 単元を見通して学び、振り返るワークシートの例

各次程のまとめを積み重ね、単元末に学習を振り返りながらまとめとして活用することを想定する。

単元を貫く問い合わせ 社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどういう政治に関わるのがよいだろうか。

1 社会を担う主権者となるために

「単元を貫く問い合わせ」を読んで生まれた疑問

問い合わせのために設立しそうな課題事項

「単元を貫く問い合わせ」に対する答えの予想

2 社会の課題を解決するために

まとめ

なぜ議会を通して政治が行われるのか。議会制民主主義がうまく機能するために大切なことは何か。

この問いは予め書かず、評議をする際に記入させる。

A・B・C

学習を振り返って気付いたこと

授業者が総括的評議を記入する。

3 社会の課題に国全体で取り組むには～食品ロスを例に～

まとめ

国会、内閣はそれぞれどのような役割を担っているのか。また、どのような関係にあるか。

知 A・B・C

学習を振り返って気付いたこと

学習者が学習を通して気付いた点や以降の学習への見通しを記入する。
授業者は記述を基に学習の改善に向けた助言を行う。

「見通し」や「振り返り」、次の学習へのつながりなどを基本としつつも、教科ごとに、また、同じ教科でも分野によって特徴がある。
それぞれの教科や分野の評価の「観点の趣旨」を確認。

4 公正な裁判の保障は人々の人権を守ることになるのか

まとめ

なぜ裁判は法に基づいて行われるのか。私たちの人権を守ることとの関係を説明してみよう。

知 A・B・C

学習を振り返って気付いたこと

5 社会の課題を私たちの力で解決していくために

まとめ

なぜ地方公共団体の政治は国と異なるのか。

知 A・B・C

学習を振り返って気付いたこと

6 主権者として社会に参画するためには

6-① これまでの学習を生かして「単元を貫く問い合わせ」の答えを論述しよう。その際、「対立と合意」、「効率と公正」「民主主義」、「個人の尊重と法の支配」などに着目してみよう。

思 A・B・C

6-② 単元の学習を振り返り、これからも問い合わせ（考え続けて）いきたいこと、また新たに生じた問い合わせから社会をよりよくするために自分で取り組んでみたいこと」を合わせて書こう。

態 A・B・C

グループ協議②

(2) ③ 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

i) 「主体的・対話的で深い学び」の実現

「主体的な学び」の視点

- 主体的な学びについては、児童生徒が学習課題を把握しその解決への見通しを持つことが必要である。そのためには、単元等を通した学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、児童生徒の表現を促すようにすることなどが重要である。

「対話的な学び」の視点

- 対話的な学びについては、例えば、実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりする活動の一層の充実が期待される。しかしながら、話合いの指導が十分に行われずグループによる活動が優先し内容が深まらないといった課題が指摘されるところであり、深い学びとの関わりに留意し、その改善を図ることが求められる。
- また、主体的・対話的な学びの過程で、ICTを活用することも効果的である。

「深い学び」の視点

- これらのことと踏まえるとともに、深い学びの実現のためには、「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする活動が不可欠である。具体的には、教科・科目及び分野の特質に根ざした追究の視点と、それを生かした課題（問い合わせ）の設定、諸資料等を基にした多面的・多角的な考察、社会に見られる課題の解決に向けた広い視野からの構想（選択・判断）、論理的な説明、合意形成や社会参画を視野に入れながらの議論などを通し、主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、主として社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関する知識を獲得するように学習を設計することが求められる。このような観点から、例えば特に小・中学校における主権者教育の充実のため、モデル事業による指導法の改善や単元開発の実施、新しい教材の開発・活用など教育効果の高い指導上の工夫の普及などを図ることも重要である。



目指す資質・能力の育成

「深い学び」の視点

深い学びの実現のためには、「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする活動が不可欠である。具体的には、教科・科目及び分野の特質に根ざした追究の視点と、それを生かした課題（問い合わせ）の設定、諸資料等を基にした多面的・多角的な考察、社会に見られる課題の解決に向けた広い視野からの構想（選択・判断）、論理的な説明、合意形成や社会参画を視野に入れながらの議論などを通し、主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、主として社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計することが求められる。このような観点から、例えば特に小・中学校における主権者教育の充実のため、モデル事業による指導法の改善や単元開発の実施、新しい教材の開発・活用など教育効果の高い指導上の工夫の普及などを図ることも重要である。

「深い学び」

課題を追究したり解決したりする活動が不可欠

追究の視点

課題（問い合わせ）の設定

諸資料等

多面的・多角的な考察

広い視野からの構想（選択・判断）

論理的な説明

合意形成や社会参画を視野に入れながらの議論

主として社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関する知識を獲得

どのような授業が見えてくるのか

例：資料の活用と理解（問い合わせを少しだけ変化させると…）

教師の説明のエビデンス：「このことはこの資料からわかりますね。」
「資料〇を見てください。このように〇〇ですね」

教師が説明することがらを生徒に資料として示す

⇒（教師の文脈で進行） <資料 → 解説 → 資料→……> 単線的

（生徒の問題意識、主体的課題意識は生まれにくい。「活用」がみられない）



課題（問い合わせ）：「この資料からわかることは何だろうか。」
「2つの資料から何が言えるだろうか」

・ 資料から生徒が抽出できることから教師が展開を考える

⇒（生徒の文脈で進行）

- ・ 資料を生徒が「どのように見て」「解釈をして」（「見方、考え方」を働かせて）対話。
「考察し、理解」「資料を活用」するプロセスが存在する → 結果的に知識が「身に付く」

資料をどのように活用するか デジタルツールを使用すれば...
考察をどのように深めることができるか。

生徒の資料解説を授業の導入に活用する事例(中学校)



教員が単元を貫く特徴をも
つ一枚の資料を提示

生徒が資料のタイトル
を考える

教員が資料を読み取る視
点を事前にガイド

①「見通し」として利用する場合

各グループに配布

- ・お客様はどんな人?
- ・どんな風に販売している?
- ・いつ頃のこと?
- ・なぜこのようなお店が登場した
と思う?など

読み取る視点を示して、話し合う
<結果を発表、共有する>
→わからないことなども共有する
(生徒の課題意識へ)

②「まとめ」として活用する場合

「読み解く視点」を示し、既習の單
元の学習内容を活用させ、「なぜ町
人が文化の担い手となったのだろ
うか。」について資料を軸に考察し
まとめ、解説を記入し、発表や提出。



(資料導入を踏まえた
授業プリントと資料)
生徒の導入の後に教
員が関連する授業を
展開(この場合は元
禄文化と町の発達)



問い合わせの構造図

課題の把握

【第一次の問い合わせ】

よりよい社会を築いていくために、国際社会で取り組むべき課題にはどのようなものがあるだろうか。

動機付け

方向付け

【単元を貫く問い合わせ】※第一次で設定し、第六次で解決を図る

世界平和と人類の福祉の増大のために、日本はどのような役割を果たしていくべきだろうか。

対立と
合意

効率と
公正

協調

持続可能性

課題の解決

新たな課題

【第二次の問い合わせ】

国際社会は、領土をめぐる問題や紛争、テロ、核兵器の脅威に、どのように取り組んできたのだろうか。

【第三次の問い合わせ】

国際社会は、限りある食料や資源の分配と格差、ヒトやモノなどの移動（国境を越えた労働や貿易）などの課題にどのように取り組んできたのだろうか。

【第四次の問い合わせ】

国際社会は、地球環境問題にどのように取り組んできたのだろうか。

【第五次の問い合わせ】

国際社会は、世界の人々の人権の保障にどのように取り組んできたのだろうか。

課題の追究

図 事例6 3 (2) 「単元における問い合わせの構造」（『参考資料』p.93）より

10

中学校社会科公民的分野の内容 大項目C(2)

課題把握

動機付け

方向付け

- ・ 公民的分野における適切な問い合わせを設定する。
- ・ 学習内容が高度になるなどしないよう、公民的分野の内容の程度と範囲にも十分配慮する必要がある。
- ・ 社会との関わりを意識した課題を設定する。
- ・ 「分野の内容に關係する専門家や関係諸機関などと円滑な連携・協働を図り、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動を充実させる」

課題追究

情報収集

考察・構想

課題解決

まとめ

妥当性や
効果、実
現可能性
など

新たな課題

振り返り

- ・ 「生徒が内容の基本的な意味を理解できるように配慮し、現代社会の見方・考え方を働きかせ、日常の社会生活と関連付けながら具体的な事例を通して、政治や経済などに関わる制度や仕組みの意義や働きについて理解を深め、多面的・多角的に考察、構想し、表現できるようにする」
- ・ 公民的分野の学習では、生徒は、様々な社会的事象の関連や本質、意義を捉え、考え、説明したり、現代社会の諸課題の解決に向けて構想したりする。その際、生徒は、政治、法、経済などに関する基本的な概念に着目したり、これらの概念を関連付けたりして考える。
- ・ 生徒が、身に付けている概念的な枠組みを用いて、政治、法、経済などに関する基本的な概念や考え方を具体的な事例を通して学び、生徒が今までもつっていた概念的な枠組みの中にこれらの基本的な概念や考え方を新たに組み入れることにより、自らの現代社会の見方・考え方を鍛えられるように工夫する。

- ・ 単元の始めに立てた見通しを踏まえて、学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見いだす。
- ・ 現代社会に見られる課題について関心をもち、問い合わせだし、その社会的意義を記述する。

ま と め

「2030年の社会と子どもたちの未来」

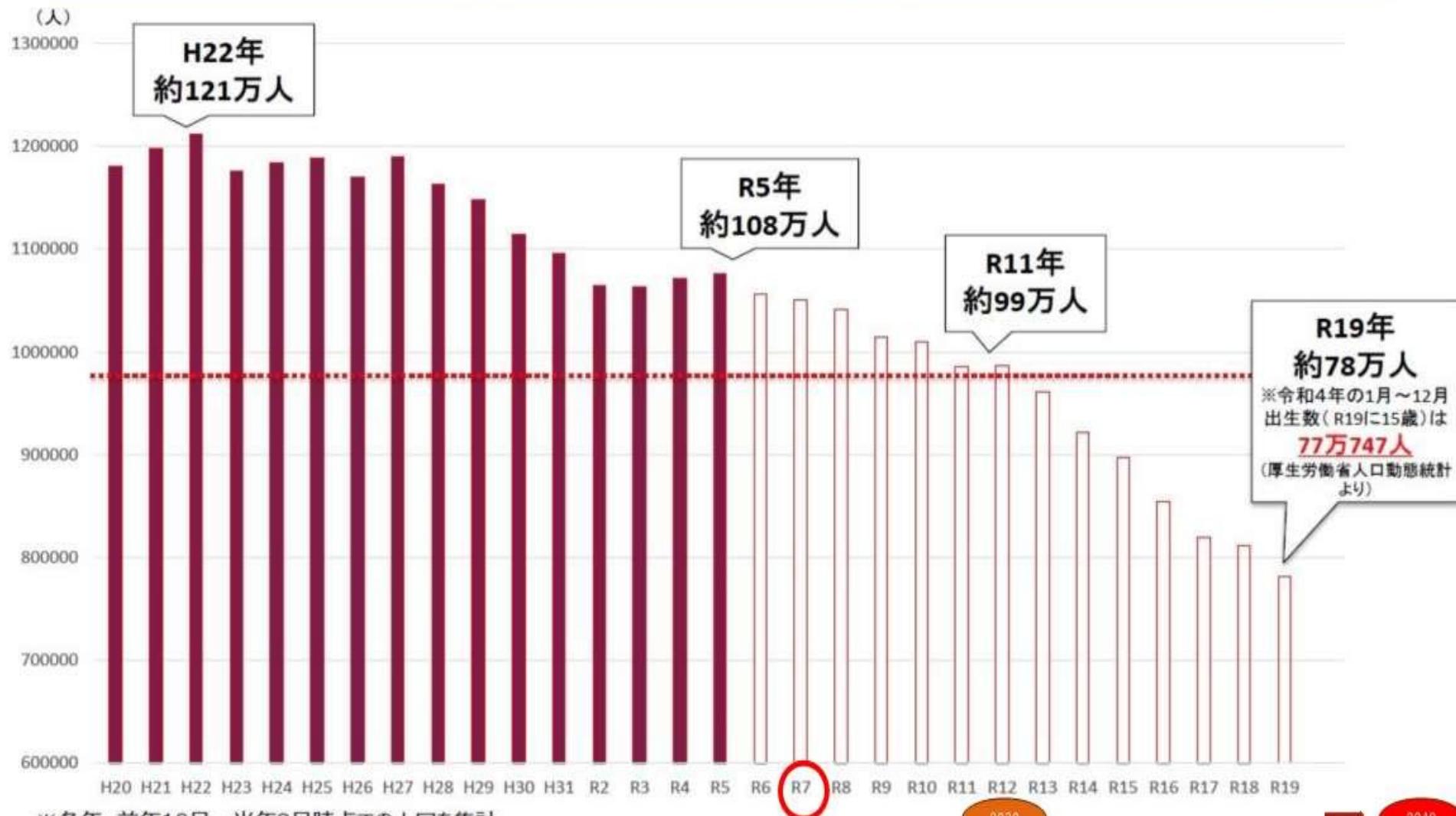
中央教育審議会教育課程企画特別部会
論点整理(抜粋) 2015年8月26日

(1) 新しい時代と社会に開かれた教育課程

- 予測できない未来に対応するためには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に發揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創りしていくことが重要である。
- そのためには、教育を通じて、解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解ける力を育むだけでは不十分である。これからの中学生には、社会の加速度的な変化の中でも、社会的・職業的に自立した人間として、伝統や文化に立脚し、高い志と意欲を持って、蓄積された知識を礎としながら、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められる。学校の場においては、子ども一人一人の可能性を伸ばし、新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成していくことや、そのために求められる学校の在り方を不斷に探究する文化を形成していくことが、より一層重要になる。

15歳人口の推移

○15歳人口は、年々減少傾向。これまで100万人を超えて推移してきたが、令和11年には100万人を割り込み、令和19年には約78万人になることがほぼ確実。令和19年の人口は令和5年と比較して約28%も減少する見込み。



※各年、前年10月～当年9月時点での人口を集計

※H20～R4までは、総務省人口推計の年齢別人口より

※R5～R18までは、総務省人口推計の年齢別人口 (R4.10.1時点) 令和4年資料より算出

教育の不易

- 明治5年に我が国最初の全国規模の近代教育法令である「学制」が公布されてから、令和4年で150年。先人たちが尽力してきた教育改革は、我が国の社会の発展に大きく寄与。
- 教育基本法の理念、目的、目標、機会均等の実現を目指すことは、これから時代においても変わることのない、教育の「不易」。

将来の予測が困難な時代の教育の羅針盤

- 社会や時代の「流行」の中で、「不易」としての普遍的な使命を実現するためにも、「流行」を取り入れることが必要。
- 2040年以降の社会を展望したとき、教育こそが、社会をけん引する駆動力の中核を担う筈み。計画は、将来の予測が困難な時代において、進むべき方向を指示する教育の羅針盤となるもの。

教育の不易と流行、羅針盤



5つの基本的な方針



徳島県小・中学校教育課程研究集会 受講者アンケートについて

○回答期間

令和7年7月24日（木）～令和7年8月1日（金）

○回答先

Plant【教育課程研究集会のページ】（申込みをしたところになります。）

○留意事項

- ・回答締め切り日を厳守してください。
- ・活用場面につきましては、複数の例を挙げてもかまいません。
- ・回答内容を別途記録しておくと、自らの学びを振り返ることに役立ちます。